



AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS

THE Y'S MEN'S CLUB OF K O B E

THE SERVICE CLUB OF THE YMCA

CHARTERED FEBRUARY 17 · 1930



- ブラザークラブ：高雄（台湾） チェンマイ（タイ） 米子（西日本区）
- 国際会長主題：すべての世界に出て行こう—エクステンション、エクステンション、エクステンション
- アジア会長主題：未来を始めよう、今すぐに—ひとつのアジア、世界はひとつ
- 西日本区理事主題：志をもって例会に参加し、学びの機会をもちましょう
- 六甲部部長主題：さらなる交流、さらなる国際、さらに活発な六甲部へ
- クラブ会長主題：クラブの伝統を踏まえ、それぞれの役割を愉しみながら、全員参加でクラブの新しい「顔」を皆で作ろう。そして、クラブに、沢山の新しいメンバーを迎え入れよう。

2013年11月

Public/Relations/Wellness強調月間

今月の聖句

そして、あなたが抱いている純真な信仰を思い起こしています。その信仰は、まずあなたの祖母ロイスと母エウニケに宿りましたが、それがあなたにも宿っていると、わたしは確信しています。

テモテへの手紙（2） 1章5節

11月4日（月・祭）第1例会

☆第15回神戸 YMCA チャリティラン

場所：しあわせの村

時：8時半集合

プログラム：

ホットドッグ 販売

11月誕生日おめでとう

10月在籍者

22名
内 功労会員 1名
合計 22名

10月出席者

メン 19名
メネット 13名
コメット 0名
ゲスト 4名
合計 36名

10月出席率

91%
(含メイキャップ)
前月出席率
83%

10月分B Fポイント

切手 0円 現金 0円

本年度累計

切手 0円 現金 0円

11月26日（火）第2例会 19:00～

◎12月クリスマス例会、米子クラブ DBC について

◎1月合同例会について

◎その他事務連絡、協議

第2例会においても、重要な議題を協議し決めてゆきます。都合をつけて出席をお願いします。

会長 進藤啓介

副会長

長内建佑

井出 浩

会計

森 章一

書記 鵜丹谷剛

山本亮司

連絡主事

山本亮司

口座番号 三井住友銀行三宮支店 普通預金No. 1494643 名義人 神戸ワイズメンズクラブ 会計 橋本正晴

例会：第1例会 毎月第2火曜日 18:30 第2例会 毎月第4火曜日 19:00

会長メッセージ

『はや5カ月』

進藤啓介

新年度が始まり、いつの間にか5カ月がたちました。早いものです。毎年のことながら、この半年、時間の経つのは早いものだと思います。福島の子供を余島に送り、タイのワークキャンプ30周年に参加し、チェンマイクラブとのIBCで友好を温め、ジャガイモをはじめとするファンド活動、YMCAの国際バザー、そして、この11月のチャリティラン、12月はクリスマス・米子クラブとのDBCと目まぐるしく時間が過ぎ去ろうとしています。その活動を我々も楽しみながら、YMCAと共に過ごして一定の成果を上げてきました。何らかの形で役に立っているのだと思います。今年はそれに加えて、先月3人のメン、1人の特別メネットを新しいメンバーを4年ぶりに迎える事が出来ました。感謝したいと思います。

ある意味、この忙しさの中に一定の満足感はあるわけですが、今、もう一度我々のクラブの足下を見つめる時期でもあるのではないかと思います。今年

のクラブ主題を今見つめなおすと、今後の課題は特に以下になると思います。

○地域奉仕活動を具体的なプログラムに落とす事。 例えば…

・ネットワーク神戸をはじめとする地域団体の支援

・東日本大震災支援

○クラブ紹介パンフレットの作成（さらなるメンバー拡大を目指す）

○クラブ85周年・メネットクラブ50周年を控え、その準備

○六甲部長の課題でもあります、各クラブとの交流

○スピーカーを招いての我々の世界、知識の拡大

といった事を念頭に置いて今後のクラブ活動を進めてまいりたいと思います

10月例会（EMC例会）報告

鵜丹谷 剛

10月度例会は、神戸クラブとしては4年ぶりの新しいメンバーをお迎えしての、入会式例会を開催いたしました。阪田昌三ワイズ、中道基夫ワイズ、山根泉ワイズ3名のワイズメン1名と斉藤明子特別メネット1名の合計4名の方々の同時入会式という、大変栄えある入会式を持つことができました。本当に心嬉しい限りです。まずは今回入会されました皆様、本当におめでとうございます。

当日は、EMC事業主任・為国ワイズ、六甲部部长・山田ワイズ、EMC事業主査・小野ワイズもお越し頂き、正に入会式に相応しい方々をお迎えしての会を持つことができました。ありがとうございました。入会式は敢えて特段絢爛な場所を選ばず、神戸クラブの通常例会会場の神戸YMCAで開催をし、また、入会式セレモニーも過度に形式重視でなく、神戸クラブらしいアットホームな雰囲気の中で執り行いました。いずれ取り壊される三宮ランチにて、お厳かではありますが、今回の入会式は行えた事に感慨深い印象を得ました。

多くの方々のご入会ゆえ、各位のご紹介にはここで筆には及びませんが、特筆の一つとしては、神戸クラブとしては実に久しぶりに、神戸YMCA理事長（中道基夫ワイズ）がご入会された事は、伝統ある神戸ク

ラブとして大変意義ある事であります。また、それら職位の限りでなく、本当にそれぞれ多士済々なキャラクターの方々が入会されたと切に思います。今後のクラブの活動や、またクラブの雰囲気作りにとあらゆる側面において、多彩なご活躍を頂けるのではないかと期待に胸と躍らせています。

現在、神戸クラブは進藤会長の掲げる旗印の一つとして、クラブ活動の新たな「顔」づくりを実施すべく邁進しております。それらへ向け既に様々な変化が来たとはいっていますが、その原動力になるべく新しい方々を今回お迎えすることができ、漸く真にその変革のスタートラインに立てたのではないかと思います。次第です。



＜今月の聖句に添えて＞

テモテはパウロが最も愛した弟子であり、彼をわが子のように思って訓練し、宣教の場に送り出していた。テモテは祖母、母の素晴らしい信仰を受け継ぎ、彼もそれに倣っていた。信仰の継承と云う事が今日の教会には一番大切なことである。

(山根貞夫司祭@神愛修女会・深和ホーム)

入会のご挨拶

＜阪田昌三＞

この度、神戸ワイズメンズクラブの一員に加えていただくことになりました阪田昌三です。自己紹介になりますが、1980年生まれの若さがアピールポイントの青年です。大学時代に障害のある方とキャンプをしたこときっかけで、福祉関係へ就職し、現在は障害のある方へ就労支援の仕事をしています。性格は人と接することが好きなので、キャンプは今も休日を利用して学生スタッフと一緒にプログラムを企画し、お互いが楽しいひとりが過ごせることをモットーに継続して活動しています。

ブリテンに入会の紹介文をということで話を頂きましたが、入会の経緯を振り返ると「サポーターの川崎さんから声を掛けていただいて、ワイズメンズにゲストで参加があつという間に入会へ話が進んでいたような・・・？」、「ワイズメンズになるにあたって・・・」と考えると正直なところ言葉が思いつきませんでした。

そんな中、入会の際に頂いた「ワイズ読本」を読んで、「ピーン」と刺激されたことは、諸先輩方々のワイズについて共通することは奉仕の精神の根源は人を大切にすること。

読本の最後のページに書かれた「YMCAの「Y」をひっくり返せば「人」となり、人の集うところに道がひらけ、ワイズメンは育ちます」という言葉通り、これからの活動の中でたくさんの人と出会い、つながりを大切に自分自身が一歩、また一歩へと成長していけるようにあります。

こんな私ですが皆様、どうかよろしくご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

＜中道基夫＞

この度、神戸ワイズに入会させていただき、みなさまの輪に加わることが出来たことを心から嬉しく思っています。

まだワイズの意味や活動そのものについてはよく分かっていないのですが、わたしにとっては社会・世界への入口、人との出会いの入口であると思っています。仕事の忙しさや外に出ることへの億劫さから、自分の殻に閉じこもりがちになりますが、ワイズに参加することで、その殻が破られ、さらにわたしの世界がワイドになることを願っています。YMCA、ワイズで与えられた人と人との繋がりが、平和を造り出す一つの重要な業だと信じています。そうした働きを支えていきたいと思っています。

わたしのワイフもメネットとして加えていただきました。夫婦共々よろしくお願いいたします。

＜山根泉＞

31年間お世話になった神戸YMCAを離れ、現在は主に知的障害者の方の入所支援施設に勤めています。私がYMCAで働くようになったのは実はワイズの導きでした。中学生の頃、当時大阪サウスクラブのメンバーであった父に誘われてクリスマス会に出席し、ご馳走をいただき横山メンの鮮やかな手品に眼を奪われた私は、その後ボランティアリーダーを経て、気がつけばYMCAでのスタッフ人生が始まっていました。若い頃から異動のたびに、高松、高松さぬき、神戸ポート、芦屋、神戸、宝塚とクラブ連絡主事として沢山の力をいただきました。高松さぬき、芦屋はチャーターメンバーでしたので入会の宣誓は実は3回目になります。三度目の正直、今度はメンバーとしてYMCAをサポートする喜びを実感したいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

速報 三宮会館国際協力バザー

10月21日、三宮会館にて、国際協力バザーが開催されました。神戸クラブも、例年のようにのみの市で協力しました。

当日の参加者は、958人。

のみの市では、203840円の売り上げで、貢献しました。



Kobe Menettes

Declared March 10·1965

パリでの書道展あれこれ

佃 治子

この9月3日～17日、フランス・パリに滞在した。9日～14日の書道展の為に。パリ展の切っ掛けは、数年前、属していた全ての書道の組織を離れて過ごしていた時、同じ立場にある友人と二人で、食事をしながら、日本以外で書道展をやってみたいねと話が出たことに始まる。調べる内、パリの日仏文化協会に連絡がとれた。そして一昨年秋二人でパリに飛んだ。文化協会を訪ね、展覧会場の下見、日程、費用などの打ち合わせをし、今回に至ったのである。

テーマは「古典に基づいた日本の書之美」。準備期間が2年近くあったのに、案内状やポスターの事で、文化協会との遣り取りがなかなか進まず、私はといえば、作品に使用する掛軸と巻軸用の料紙、扇子、帯、貝合せの貝などの材料選びに悩んだ。特に、料紙について時間がかかった。今は故人となられた方から頂いた料紙、しかるべき時に使いたいと思っていたのを今回使うことに決めた。秋草の地紋の入った料紙に、佐々木信綱の「やまと言葉の」歌を書いた。扇子は、仕上がった舞扇に直接、漢字を書いたのと、扇面の紙に万葉集、俳句、古詞を書いて、京都の扇店に仕立てに出した。貝合せは、貝に絵の代わりに、源氏物語からの歌を書き、巻軸には会津八一の「南京新唱」から奈良を詠んだ歌を書いた。これらの作品の表装など全て仕上がったのが、出発5日前、てんやわんやの出発となった。



展覧会場のディスプレイは、文化協会の方にお任せした。石の壁に囲まれた会場だったが、そこに空間と照明を上手く活かして、温かみのある展示場を作ってくれた。掛軸は、余裕をもって壁面に、扇子は飾る位置の高さや本数を考え、貝合せは、2枚の貝の歌を合わせるのではなく、巻軸の上に散りばめたり、扇子の脇に置いたり、又、帯の扱い方も、単品で飾ることなく、他の作品を活かす為に、敷物にして、その上に、貝や、扇子を飾ったり、私達には、思いつかなかった感性に、大いに刺激を受けた。来場者の方達からも、表装のこと、歌のこと、文字のこと、作品の作り方等の質問も受けた。



この展覧会を通じて、侘びとか寂び、みやびなど、日本の書之美を少しでも伝える表現が出来たかなと……。そして、私達を支えて下さった方達、出会った多くの方達に感謝し、これからも新しい気持ちで歩いてゆきたいと心した展覧会でした。

